

SDGsと聖徳太子にちなみ 17色にライトアップ



「十七条憲法」にちなんで庁舎の柱の数は17本。柱と柱の間に加え、建物の隣に立つアオダモの木も照らして17色に。



聖徳太子にゆかりのある太子町では、各種推進・啓発週間などに庁舎をライトアップしています。3月10日㊤からは、17日㊤の「みんなで考えるSDGsの日」に合わせて17色に。色数はSDGsの17の目標と聖徳太子が制定した「十七条憲法」にちなんだもので、17番目の目標「パートナーシップ」と聖徳太子の教え「和を以て貴しと為す」の下、「住民の皆さんと協働して持続可能なまちづくりを進めていきたい」という思いを込めています。ライトアップを始めて今年で6年目を迎え、撮影スポットとしても人気が広がっています。（太子町企画政策課）

㊤3月10日㊤～17日㊤日没～21時 ㊤太子町庁舎
㊤同町企画政策課 ☎079-277-5998 📠079-277-2201



詳しくは
こちら

機能性と美しさを兼ね備えた 貴重な炭



詳しくは
こちら

大阪と兵庫にまたがる北摂地域では、点在する鉱山から産出される銀や銅の精錬作業に使うため、室町時代から炭焼きが盛んでした。川西市黒川地区で生産される「一庫炭」は美しい断面を持ち、煙が立たずパチパチとはぜないことから茶席用の高級炭として重宝されてきました。地区に40軒ほどあった炭焼き農家は時代とともに減り、今では私たちだけになっています。炭焼きシーズンは、原料のクヌギが乾燥している1月から5月にかけて。クヌギは切った幹から新芽が出て枝へと成長するため、10年サイクルで伐採します。そうすることで親株は元気に保たれ、樹齢300年を超えるものも少なくありません。自分たちで山から切り出した木を窯で3日間燃やした後、酸素を止めて5日間寝かせ、完全に炭化させてから取り出します。中の温度はまだ100℃あるなど大変な作業の連続ですが、全ては高品質の炭を生み出すため。これからも日本の伝統の技を守り続けていきたいです。（今西菊炭本家 今西学さん）



1「火を止めるタイミングが難しい」と今西さん。煙の色やにおいで判断し、作業は夜中までかかることも。22年前の新芽が細枝に成長した樹齢400年のクヌギ。新芽を鹿から守るため、最近では幹を2mほどの高さで伐採しています。

㊤今西菊炭本家 ☎072-738-0268 📠072-738-0368



丹波市氷上町にあるカタクリの花の群生地「清住かたくりの里」が、3月下旬から4月中旬にかけて見頃を迎えます。発芽してから花を咲かせるまでに7、8年もかかるユリ科の多年草で、そのかれんな咲き姿から「春の妖精」とも呼ばれています。約1,000㎡のクヌギ林に赤紫のじゅうたんを敷いたように一斉に咲く様子は必見です。4月5日㊤は「清住かたくりまつり」を開催します。近隣には「丹波の正倉院」といわれる達身寺がありますので、花と共に歴史散策も楽しんでください。（清住村おこし実行委員 片山節夫さん）



1春の約2カ月間だけ地上に現れ、その他の季節は球根の状態で地中に潜っています。2気温約15度以上で開花。気温が下がる朝と夕方以降はつぼみの状態に。

清住かたくりの里
㊤3月28日㊤～4月12日㊤9時～16時
（公開日時）
㊤中学生以上500円、小学生以下無料
※達身寺の拝観料を含む
㊤丹波市観光協会かいばら観光案内所
☎0795-73-0303 📠0795-86-8750



詳しくは
こちら